

上新電機オーディオ試聴会 (2019.9.8)
—YG アコースティック、KRELL、OROHEUS 試聴会—

1. はじめに

上新電機日本橋 1 番館で開催された、YG アコースティック、KRELL、OROHEUS ハイエンドオーディオ試聴会に行ってきました。海外ハイエンドオーディオを手掛ける ACCA のブランドから Carmel 2、RACK、DUO 300、K300iDigital、ILLUSIONなどを組み合わせて試聴が行われました。

2. 使用機器

スピーカー：YG アコースティック Carmel 2

パワーアンプ：KRELL Duo300

プリアンプ：KRELL Illusion

プリメインアンプ：KRELL K300iDigital

SACD/CD プレイヤー：OROHEUS Heritage SEP

上記の他にラックも KRELL の高価な RACK が使用されました。





上段より
SACD/CD プレイヤー
プリアンプ
メインアンプ



プリメインアンプ

当日のセッティング

3. 試聴会の進行

総額¥1600万円の何とも高価なシステムでの試聴会でした。

試聴は、YG アコースティック Carmel 2 と KRELL のアンプの説明を加えながら進行しました。YG アコースティックの特徴は f 特と位相を両立させるネットワークと密閉型の弱点を克服するためのアンチレゾネーターという背圧を減ずる工夫がされているとのことでした。KRELL のアンプは入力に応じてバイアスを調節することと出力インピーダンスも制御するデジタル回路の採用ということでした。

試聴は、上記のセパレートアンプを使ってスタートし、最初の曲は女性ボーカル、ついでバッハのカンタータのアリアをギター伴奏で歌うテナーのアリアでしたが、一聴して切れの良い、透明度の高い音で、ボーカルの細かいニュアンスが聴き取れました。

次に、ギターソロ、Jazz のコンボ、ロックと聴いていきましたが、ギターやトランペットやエレキの音の明晰さや生々しさがよく出ていました。

ここで幻想の 5 楽章がかかりましたが、解像度と定位がよく、細部の表現に優れている印象で、鐘やティンパニの音も明晰です。敢えて注文をつければ、弦や木管の湿度感が若干乏しく、クールに過ぎるところがあります。バロックアンサンブルやモーツァルトではどうなるか、興味のあるところです。

ここで、プリメインアンプの駆動に変更し、合唱の入ったボーカル、女性ボーカル、ロックがかかりましたが、若干音の切れ味が甘くなるところがありましたが、駆動力も十分で KRELL のアンプの特徴が継承されていることが分かりました。

全般を通じて、ともすれば低域がぼやけ気味になる密閉型の問題に対して YG アコースティックのアンチレゾネーターが効果を発揮している印象です。

4. まとめ

これぞ、現代のハイエンドの極致という音が披露されましたが、クラシックに関しては、再生された曲が少なく、その真価を判断するのは早計という印象です。

以上